

マスク着けても息を楽に スタートアップが装置を開発

2020/11/4 19:00 | 日本経済新聞 電子版

建築関連スタートアップの適正地盤構造設計（大阪市）はマスクのあごにあたる部分をあけ、息をしやすくなるアタッチメントを開発した。ソーシャルディスタンス（社会的距離）が取れた工事現場などでの利用を想定する。



独自のアタッチメントでマスクに隙間を作って息が楽にできる

大阪大学大学院工学研究科の宮本裕司教授と共同で開発した。マスクの下ひもを切って、独自のアタッチメントを付けると、あご部分に隙間を作れる。人が密集する場所では閉めたままにもしておける。発売日は未定。

©日本経済新聞社 許諾番号30078884

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。